

●1-9 錯誤による意思表示 …意思表示に問題があった場合 その5

| | | |
|------|-------|---|
| 錯誤とは | 単なる錯誤 | 自己の真意ではないことを認識せずに勘違いして行なった意思表示 |
| | 要素の錯誤 | 意思表示の 重要な部分に錯誤 があった場合 【条文の文言】 法律行為の要素に錯誤があったとき ex. 錯誤がなかったならば意思表示をしなかったような場合 1番地を2番地と勘違いして意思表示 |
| | 動機の錯誤 | 意思表示をするに至った 内心に錯誤 があった場合 ex. 新駅ができるので地価が高騰するだろう ⇒新駅は噂話だった *相手方に対して、 明示的または黙示的にその動機が表示されていた場合 に限って、法律行為の要素となり、表意者が無重過失であれば、 錯誤による無効の主張 ができる |

| | |
|---|---|
| <p>原則 有効 単なる錯誤では無効の主張はできない</p> <div style="text-align: center;"> <p>①錯誤 (単なる錯誤)</p> <p>有効 無効の主張はできない</p> </div> | <div style="text-align: center;"> <p>A→Bの関係</p> </div> <p>∴ A=勘違いして「売りましょう」と意思表示してしまったのだから 無効(なかった事に)したい B=いくら勘違いだといっても、何でもかんでも無効にされたのでは たまったものではない(取引の安全)</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>原則 有効 単なる錯誤では無効の主張はできない</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>A・Bのバランスを考えて、 錯誤による無効を主張する場合に2つの要件を定めている</p> <p style="text-align: center;">① 要素の錯誤であること ② 無重過失であること ≠無過失</p> <p style="text-align: center;">↓</p> <p>無効の主張ができる</p> |
| <p>例外 2つの要件を満たす場合は、無効の主張ができる</p> <div style="text-align: center;"> <p>①要素の錯誤であり、かつ無重過失</p> <p>無効の主張ができる</p> </div> <p>*表意者の意思に反して、相手方・第三者からの無効の主張はできない ∴表意者の保護の規定 *相手方が悪意、または相手方の詐欺による錯誤の場合、重過失があっても無効の主張ができる</p> <p>【条文の文言】 法律行為の要素に錯誤があったときは無効とする ただし、表意者に重大な過失がある場合は無効の主張はできない</p> | |

・第三者との関係 (善意・悪意)

| | |
|--|--|
| <p>錯誤による無効は、 善意の第三者に 対抗できる 悪意の第三者に</p> | <div style="text-align: center;"> <p>A→Cの関係</p> </div> |
| <div style="text-align: center;"> <p>①要素の錯誤であり、かつ無重過失</p> <p>無効の主張ができる</p> </div> <p style="text-align: center;">無効を対抗できる</p> <p>∴無効の主張をするために、2つの要件が付いているので、第三者の善意・悪意は問わない</p> | |